

阪神・淡路大震災 追悼のことば

(令和7.1.17 2校一斉放送にて)

皆さん、おはようございます。芦屋国際中等教育学校長の川崎芳徳です。

今日は1月17日、私たちが、決して忘れてはいけない日ですので、少しの時間、追悼行事を行わせていただきますこと、ご理解ください。

今からちょうど30年前の1995年、平成7年の1月17日、まだ、多くの人が眠っていた、早朝5時46分52秒に、マグニチュード「7.3」、最大震度「7」という、直下型の巨大な「兵庫県南部地震」が発生し、「阪神・淡路大震災」を引き起こしました。私も、今でも、この時の「揺れ」の感覚を身体（からだ）が覚えています。生まれて初めて、「地球は生きている。地球という、まさに“生きた星”の上に、これまで住まわせてもらっていたのだ」ということを身体を通して実感させられました。

亡くなられた方、6,434名という、あまりにも多くの尊い命…お一人お一人、それぞれに夢と希望に満ち、充実した人生の真ただ中だったのです。思い出の詰まった家、住み慣れた街並みごと、すべてこの地震が突然に奪い去りました。あまりにも惨（むご）い出来事でした。

現在、「阪神・淡路大震災」を体験していない人が増えていく一方、今年の能登半島地震、先日の中国チベット自治区の大地震など、毎年のように、大地震、大型台風、集中豪雨などによる災害に見舞われている今日（こんにち）、追悼行事や防災避難訓練を通して、震災の「経験」、そして、そこから得た「教訓」を風化させることなく心に刻み、継承していくことが強く求められています。

とりわけ、私たちの「命」について、改めて考える機会にしなければならないと思っています。日頃、私たちは、ともすれば、「命」を軽んじる発言や行動を取ることがあります。しかし、考えてみてください…皆さん、昨夜の夕食のメニューは何でしたか？ 今朝の朝食メニューは何でしたか？ それの中に「命」を持たない物が入っていましたか???

私たちは、かわいい牛の「命」を、鶏の「命」を、豚の「命」を、魚の「命」を、貝の「命」を、また、すくすく育ち、確かな「命」を宿している野菜を…。これら多くの「命」をいただくことで、私たちは、自身の「命」を持続することができているのです。

どうでしょうか…私たちの「命」は、自分だけのものなのでしょうか。多くの動植物の「命」をいただくことで、持続できているこの「命」、そして、人類が誕生した遙（はる）か遠い昔から、先祖代々、脈々と受け継がれ、ご両親から、奇跡的な確率で受け取ることができた「命」、このことを思えば、自

分の「命」は、既に、自分だけのものではないことに気づかされるでしょう。

大切に大切に、この「命」尽きるまで、時には皆で寄り添いながらも精一杯生き、少しでも世のため人のために貢献することで、恩返しをしなければならないのではないのでしょうか。

皆さん、どうか、震災の「経験」、「教訓」、「命」について、心静かに思いを寄せるとともに、ご家族・友人と話題にし、語り継いでいってください。

兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する日として、1月17日を「ひょうご安全の日」と定めており、現在、HAT神戸にある「人と防災未来センター」を中心に、追悼行事「ひょうご安全の日のつどい」が、テーマを「震災を風化させないー『忘れない』『伝える』『活かす』『備える』」に、今年新たに『繋ぐ』を加え、執り行われています。

この集いに合わせ、この後、皆さんも一緒に、犠牲になられた多くの方々に対し黙禱を行っていただきたいと思います。

震災で犠牲になられた方々に、心より哀悼の誠を捧げ、追悼のことばといたします。